

『大原社会問題研究所雑誌』 2021 年度総目次

- (1) 2009～2020 年度の総目次については各翌年度 4 月号を参照されたい。
- (2) 『資料室報』第 1 号～『大原社会問題研究所雑誌』第 599・600 号までの総目次については、2008 年 10・11 月号 (No.599・600) を参照されたい。
- (3) なお、大原社会問題研究所 Web サイト (<http://oisr-org.ws.hosei.ac.jp/oz/>) でも、バックナンバー総目次を掲載している。さらに、1997 年 4 月号以降については、雑誌本体のオンライン・ジャーナル化、Web 上での公開を行っている。

2021 年 4 月号 No. 750

【特集】第 33 回国際労働問題シンポジウム	
COVID-19 危機からより良い仕事の未来へ——産業別の取組みと社会対話	
特集にあたって	藤原千沙
基調講演 COVID-19 危機と ILO——産業別に見た取組み	伊澤 章
使用者（企業）の立場から	吉川美奈子
労働者（労働組合）の立場から	郷野晶子
政府の立場から	井内雅明
学識経験者の立場から	中村圭介
ディスカッション	
■論文	
「病院スト」と医療従事者の賃金	西村 健
■書評と紹介	
松本洋幸著『近代水道の政治史——明治初期から戦後復興期まで』	梅田定宏
役重眞喜子著『自治体行政と地域コミュニティの関係性の変容と再構築——「平成大合併」は地域に何をもたらしたか』	井上信宏
阿部武司著『アーカイブズと私——大阪大学での経験』	清水善仁
社会・労働関係文献月録	
『大原社会問題研究所雑誌』2020 年度総目次	
月例研究会 1930 年代の日本のプロレタリア革命芸術運動における偉大な女性たち	金怡辰
所報	2020 年 12 月

2021 年 5 月号 No. 751

【特集】ヴェルサイユ体制下のドイツ、史的再考——ヴァイマル共和国の政治、経済、社会（1）	
特集にあたって	進藤理香子
ドイツの対中通商政策とヴェルサイユ＝ワシントン体制の急旋回——1928-1931 年	工藤 章
1920 年代前半におけるメーメル地域をめぐる国際的確執について——ヴェルサイユ体制下の東プロイセンとメーメル河航行問題（I）	進藤理香子
ヴェルサイユ体制下のドイツ鉄鋼業とフリードリヒ・フリック	伊東林蔵
■論文	
初期民友社の社会・労働問題論と「平民主義」——竹越与三郎を中心に	大田英昭
■書評と紹介	
大場茂明著『現代ドイツの住宅政策——都市再生戦略と公的介入の再編』	服部圭郎
熊本理抄著『被差別部落女性の主体性形成に関する研究』	矢野 亮

社会・労働関係文献月録	
所報	2021年1月

2021年6月号 No. 752

【特集】ヴェルサイユ体制下のドイツ、史的再考——ヴァイマル共和国の政治、経済、社会（2）	
ドイツ・リトアニア間内陸水運に関する船舶航行協定、1923/1924年 ——ヴェルサイユ体制下の東プロイセンとメーメル河航行問題（Ⅱ）	進藤理香子
両世界大戦間期のドイツにおける労働史研究の「新展開」 ——近年の研究における雇用創出政策に対する理解をてがかりに	枅田大知彦
■論文	
ホワイトカラー労働における自宅でのICT作業の実態と課題 ——働く場所が柔軟化する中でのワーク・ライフ・バランス	高見具広
■書評と紹介	
佐々木啓著『「産業戦士」の時代——戦時日本労働力動員と支配秩序』	大門正克
立本紘之著『転形期芸術運動の道標 ——戦後日本共産党の源流としての戦前期プロレタリア文化運動』	村田裕和
社会・労働関係文献月録	
月例研究会 丸子警報器労組関係資料整理の成果と課題	新原淳弘
所報	2021年2月

2021年7月号 No. 753

【特集】「自立支援」の現在（1）	
特集にあたって	堅田香緒里
若者を食べ吐きする「若者自立支援政策」	岡部 茜
学習支援を通じた子どもの「自立」支援がもたらす管理の全面化	阿比留久美
生活保護における自立支援と統治 ——インセンティブ、コンディショナリティ、産福複合体（貧困-産業複合体）	桜井啓太
■研究ノート	
野党共闘への道——連合政権と選挙協力をめぐる日本共産党の模索	中北浩爾
■書評と紹介	
下夷美幸著『日本の家族と戸籍——なぜ「夫婦と未婚の子」単位なのか』	堀江有里
田中智子著『知的障害者家族の貧困——家族に依存するケア』	土屋 葉
社会・労働関係文献月録	
月例研究会 大学アーカイブズ研究の成果と課題	清水善仁
所報	2021年3月

2021年8月号 No. 754

【特集】ロバート・オウエンにおける協同思想の再検討	
特集にあたって	後藤浩子
オウエン主義、協同思想、失敗の残像、あるいは神話の創作	オフエリー・シメオン ／結城剛志訳
アイルランドにおけるオウエン主義思想——ウィリアム・トンプソンとE.T.クレイグ	中川雄一郎
ロバート・オウエンのアイルランド訪問——クロンクリ卿とウィリアム・トンプソン	後藤浩子

■論文	
鉄鋼業における業績連動型の一時金制度——一時金の支給水準の変動と上昇について	藤井浩明
■書評と紹介	
平山洋介著『マイホームの彼方に——住宅政策の戦後史をどう読むか』 『「仮住まい」と戦後日本——実家住まい・賃貸住まい・仮設住まい』	岩田正美
鬼嶋淳著『戦後日本の地域形成と社会運動——生活・医療・政治』	松田 忍
渋谷典子著『NPOと労働法——新たな市民社会構築に向けたNPOと労働法の課題』	笹沼朋子
社会・労働関係文献月録	
月例研究会 建設労働と移民——社会学における産業労働研究の視点から	恵羅さとみ
所報	2021年4月

2021年9・10月号 No. 755・756

【特集】オリンピックムーブメントの「転換点」としての2020東京オリンピック	
特集にあたって	市井吉興
「復興五輪」をめぐるポリティクス——災害パターンリズムに抗する被災地	笹生心太
コロナ禍のメガイベントとその検証——迷走する2020年東京大会と日本社会	小澤考人
「換骨奪胎」のスポーツ政策——「スポーツ市場15兆円」計画、スポーツガバナンス、そして「2020東京オリ・パラ」	棚山 研
オリンピック・ウォッシング?——サーフィンがオリンピック競技になるとき、ジェンダー平等/公正は実現するのか	水野英莉
オリンピックが生み出す「資本主義リアリズム」 ——現代オリンピックと資本主義の諸相への一考察	市井吉興
■講演	
『悪党・ヤクザ・ナショナリスト』を執筆するまで	エイコ・マルコ・シナワ
■書評と紹介	
樋口直人/松谷満編著『3.11後の社会運動——8万人のデータから分かったこと』	西城戸誠
井上ゆかり著『生き続ける水俣病——漁村の社会学・医学的実証研究』	宮内泰介
石山徳子著『「犠牲区域」のアメリカ——核開発と先住民族』	藤川 賢
法政大学大原社会問題研究所 2020年度の歩み	
社会・労働関係文献月録	
月例研究会 『労働者と公害・環境問題』を読む	鈴木 玲
所報	2021年5・6月

2021年11月号 No. 757

【特集】「自立支援」の現在 (2)	
社会政策パラダイムの変化とひきこもり支援施策・当事者活動	関水徹平
野性の喪失——障害者福祉と障害者運動の現在	深田耕一郎
ネオリベラルな福祉再編と女性の「自立支援」をめぐる一考察 ——婦人保護事業「見直し」の議論をめぐって	堅田香緒里
■研究ノート	
フランスにおけるケア労働の「専門化」と旧植民地アフリカ出身女性労働者 ——移住による「下方移動」と職業経験認定制度VAEによる資格取得	園部裕子

■書評と紹介	
サンドラ・シャル著『『女工哀史』を再考する——失われた女性の声を求めて』	倉敷伸子
小島庸平著『大恐慌期における日本農村社会の再編成——労働・金融・土地とセイフティネット』	加瀬和俊
福田直人著『ドイツ社会国家における「新自由主義」の諸相——赤緑連立政権による財政・社会政策の再編』	武田公子
山田信行著『グローバル化と社会運動——半周辺マレーシアにおける反システム運動』	吉村真子
町村敬志著『都市に聴け——アーバン・スタディーズから読み解く東京』	根岸海馬
社会・労働関係文献月録	
月例研究会 労働組合と大学生の連帯——2013年韓国鉄道組合の事例を中心に	朴峻喜
所報	2021年7月

2021年12月号 No. 758

【特集】冷戦体制下のソ連・東欧社会主義圏と西側世界の文化学術交流	
特集にあたって	進藤理香子
冷戦体制下におけるソ連と日本の文化学術交流	アンドレイ・クドリャチェンコ／進藤理香子訳
冷戦期ポーランド・ドイツ間の音楽によるつながり——政治、そして個人交流が果たした役割	アンナ・G・ピョートルロフスカ／中川隆・藤田理雄訳
冷戦体制下のソビエト文化政策とウクライナ問題	ヴィクトリア・ソロシェンコ／進藤理香子訳
ドイツ社会主義統一党の文化政策——文学領域における展開	フランク・リースナー／清水雅大訳
特集論文・英文要旨	

■書評と紹介	
水野広祐著『民主化と労使関係——インドネシアのムシャワラー労使紛争処理と行動主義の源流』	山田信行
佐々木剛二著『移民と徳——日系ブラジル知識人の歴史民族誌』	根川幸男
中田元子著『乳母の文化史——19世紀イギリス社会に関する一考察』	竹内敬子
飯田未希著『非国民な女たち——戦時下のパーマとモンペ』	難波知子
上原こずえ著『共同の力——1970～80年代の金武湾闘争とその生存思想』	森 啓輔
小川慎一著『日本の経営としての小集団活動——QCサークルの形成・普及・変容』	石田光男
社会・労働関係文献月録	
月例研究会 石炭産業の転換と「閉山の子どもたち」のライフコース	笠原良太
所報	2021年8月

2022年1月号 No. 759

【特集】D. グレーバーと自由への展望——〈労働〉と〈抵抗〉をめぐる（1）	
特集にあたって	鈴木宗徳
1960年代学生運動における新しい組織像と予示的政治の可能性——所美都子の運動論と1968～69年東大闘争を中心に	小杉亮子
女性の解放とアナーキズム——エマ・ゴールドマン、伊藤野枝、そしてロジャヴァ革命に焦点を当てて	田中ひかる

逃走の地理——朝鮮戦争前後の朝鮮人「密航」をめぐって	森田和樹
■論文	
養護学校義務化以前の知的障害者のライフコース ——1960年代から1970年代における東京都福祉作業所の分析	原田玄機
■書評と紹介	
亀口まか著『河田嗣郎の男女平等思想——近代日本の婦人問題論とジェンダー』	杉田菜穂
今野晴貴著『ストライキ2.0——ブラック企業と闘う武器』	篠田 徹
今井順著『雇用関係と社会的不平等 ——産業的シティズンシップ形成・展開としての構造変動』	田中洋子
金子龍司著『昭和戦時期の娯楽と検閲』	鷺谷 花
社会・労働関係文献月録	
月例研究会 空襲体験記の原稿を読む ——『東京大空襲・戦災記』原稿コレクションの整理と分析	山本唯人
所報	2021年9月

2022年2月号 No. 760

【特集】D. グレーバーと自由への展望——〈労働〉と〈抵抗〉をめぐって (2)	
特集にあたって	鈴木宗徳
インフラの呪縛からの解放——寄せ場の労働を再解釈する	原口 剛
1970年代イギリス労働者階級の女性解放運動とベーシックインカム ——ケアリング階級の予示的政治	山森 亮
「多様なケア階級の反乱」に向けた一考察 ——ニューヨーク移住家事労働者の運動を手がかりに	森千香子
亡命的空間の理解に向けて——資本主義、相互扶助、物質生活	デニス・オハーン、アン ドレ・グルバッチ／芳 賀達彦訳
訳者解題——亡命の人に向けて	芳賀達彦
■書評と紹介	
松尾孝一著『ホワイトカラー労働組合主義の日英比較——公共部門を中心に』	田口典男
社会・労働関係文献月録	
月例研究会 水俣チッソの労使関係 ——『水俣に生きた労働者』（明石書店）の執筆・編集に関わって	富田義典
所報	2021年10月

2022年3月号 No. 761

【特集】アメリカの構造的差別を問う——歴史とその実態 (1)	
特集にあたって	南 修平
カラーラインの形成と「新移民」——20世紀前半のアメリカ人種社会	中野耕太郎
アメリカ合衆国における制限的不動産約款の廃止 ——1948年「シェリー対クレマー」判決の影響	武井 寛
アフターマティヴ・アクションはアジア系差別か ——「公平な入試」論争とアメリカの人種秩序	南川文里
「表現という剣」——ワッツ・ライターズ・ワークショップと ロスアンゼルスにおける制度的人種差別との闘い	土屋和代

■論文	
厚生労働省老健局長のキャリアパス分析	近藤貴明
■書評と紹介	
福元真由美著『都市に誕生した保育の系譜——アソシエーションイズムと郊外のユートピア』	沢山美果子
社会・労働関係文献月録	
月例研究会「投書階級」とは誰か——昭和期川口市の一主婦の生きづらさと投書	金子龍司
お詫びと訂正	
所報	2021年11月

法律文化社

京都市北区上賀茂岩ヶ垣内町71 <https://www.hou-bun.com/>
●表示は税込価格

家族の変容と法制度の再構築

●ジェンダー／セクシュアリティ／子どもの視点から

二宮周平・風間孝編著

●A5判 380頁 / 6160円



法学・社会学を中心とする研究者・実務家が協働し、分野横断的に家族をめぐる実態や法制度の現状、変容を考察、課題と展望を示す。

序章 家族と法制度の変容

二宮周平

1部 家族のリアルを問い直す

- 1 新自由主義以降の家族規範の変容とグローバル資本主義の展開……………海妻径子
 - 2 子育て支援と家族主義——子どものケアをめぐる論理を書き換える……………松木洋人
 - 3 男の介護を通して見る「ケアとは何か」……………平山亮
 - 4 若者の結婚言説にみる結婚観の（変質）と親密性の変容……………永田夏来
 - 5 ステップファミリー——複数世帯を横断するネットワーク家族の可能性と法制度の再構築……………野沢慎司
 - 6 異性愛を前提とする家族概念をはみ出す同性パートナーシップ制度……………風間孝
 - 7 セクシュアルマイノリティの家族形成……………杉山麻里子
 - 8 トランスジェンダーが子どもをもつこと——性別変更と生殖医療……………小門穂
- 2部 法制度の再構築を考える
- 1 「近代家族」を超える——21世紀ジェンダー平等社会へ……………三成美保
 - 2 家族と民主主義……………田村哲樹
 - 3 憲法・人権からみたジェンダーおよび親密圏……………齊藤笑美子
 - 4 暴力とジェンダー——性犯罪、DV、セクハラを中心に……………矢野恵美
 - 5 セクシュアルマイノリティに関する国際社会の議論の到達点と課題……………谷口洋幸
 - 6 子どもの権利保障——親子法制の見直し……………大江洋
 - 7 子ども虐待対応に関する現行法の問題点と改正私案……………山田不二子
 - 8 子どもの権利向上の視点からの「家族」支援法制の考察……………鈴木秀洋
- 終章 血縁・婚姻から意思へ——家族の法制度の再構築……………二宮周平

共助の稜線〔増補版〕

玉井金五著

●近現代日本社会政策論研究 旧版の書評に込める形で日本社会政策の基本的論点を確認する「終章」を増補。具体的には、①長期的視点から経路依存性を明らかにし、②国際比較における「先発／後発」の研究手法の限界を示し、福祉国家形成史の重要性を示す。

●A5判 318頁 / 5940円